

# 社会福祉法人つくし会 幼保連携型認定こども園 こどもえん つくし 平成29年度 自己評価

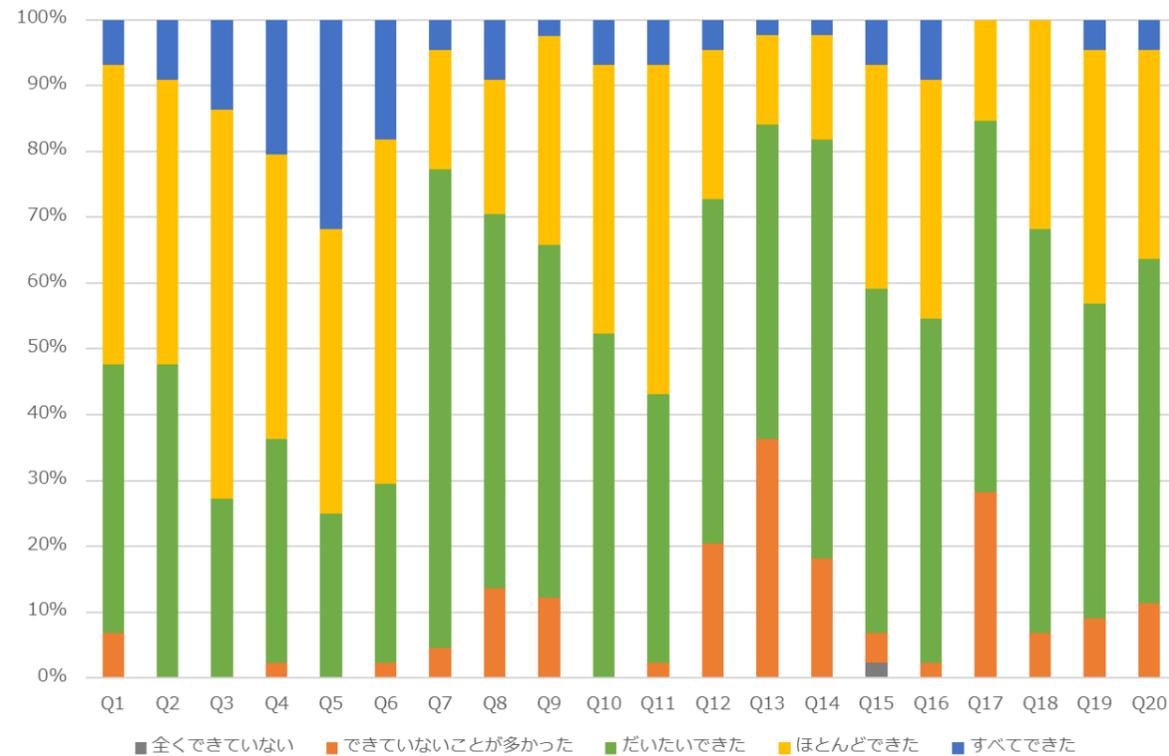
## 1. 本園の教育・保育目標

1. 健康な子ども	2. 自分のことは自分でできる子ども	3. 豊かな感情と創造力をもつ子ども
4. 自分で考えて行動する子ども	5. 人、もの、自分を大切にできる子ども	
0歳児	生活欲求を満たし生活リズムをつかむ	温かな雰囲気をつくり、五感を育む
1歳児	いろいろな世界に興味をもち活発になる	姿勢運動・みたて遊び・身振り活動
2歳児	行動範囲が広がり探索活動がさかになる	象徴機能・みたてつもりを楽しむ
3歳児	保育教諭や友だちとしっかり関わって遊ぶ中で自分の伝えたいことや思いを言葉や行動で表現できる	
4歳児	友だちとの繋がりを広げ、感情も豊かになる	豊かな感性を育む
5歳児	集団活動の中で意欲的に活動し知識や能力を獲得し達成感や充実感を味わう	

## 2. 職員の自己評価

職員自己評価項目 「1. 全くできていない」～「5. すべてできた」の5段階にて評価	
Q1 あいさつ・電話・来客対応ができる	Q11 自分の職務に積極的に取り組むことができる
Q2 言葉づかいに気を付け、常に笑顔で心がける	Q12 職務遂行に積極的に担当以外の業務にも進んで取り組むことができる
Q3 仕事に適した身だしなみに注意している	Q13 職務の中で、不都合なことの改善及び提案ができる
Q4 自己の健康管理ができる	Q14 自己研鑽を積むことができる
Q5 職種や園の信用をなくす行為、発言をしない	Q15 職員間で連絡体制が確立されている
Q6 上司の指示や定められた規則、手続きを守ることができる	Q16 職員間で協調性や信頼感がある
Q7 保育所における2つの保護者支援について理解している	Q17 後輩に適切な助言や的確なフォローができる
Q8 保育所における保護者に対する支援の基本を理解している	Q18 他人の心情・立場を理解し、物事を判断し援助できる
Q9 入所児の保護者との相互理解に努めている	Q19 保育事業などに関心を持っている
Q10 公平に人の話を聞いたり、話をしたり、正確に伝達できる	Q20 福祉サービスの多様化に関心を持っている

平成29年度 職員自己評価



回答者：こどもえん つくし職員 44名 (女性 44名、 $\bar{x}$  = 39.2歳)

## 結果

できた点・・・「職種や園の信用をなくす行為、発言をしない」「自己の健康管理ができる」「上司の指示や定められた規則、手続きを守ることができる」「仕事に適した身だしなみに注意している」

できなかった点・・・「職務の中で、不都合なことの改善及び提案ができる」、「後輩に適切な助言や的確なフォローができる」

## 3. 評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目	取り組み状況
1. 教育・保育目標と内容	全職員で教育・保育目標を周知し、各年齢チーム職員間で内容を共通理解のもと指導計画を作成し実践した。
2. 職員の資質向上	専門家としての能力の向上と自己研鑽のため、教育・保育実践、障がい児保育、救急対応、アレルギー対応、子育て支援、労務管理など様々な分野の研修に参加した。
3. 保健・安全指導・特別支援教育	衛生管理：年に2回感染症予防に関する園内研修を実施し、看護師を中心に再確認を行った。 安全管理：遊具点検は担当者が、避難訓練は全園でそれぞれ月に一度行った。 健康面・発達面で特別な配慮が必要な児童について：一人ひとりに合わせた養護・教育を行うという観点から、担当が会議にて情報を発信し、全職員が適切な対応ができるよう呼びかけた。また、保護者が希望する場合は施設長が面談を行った。
4. 保護者との連携・情報	保護者との信頼関係の構築：家庭での様子、園での様子を保護者と担当が伝え合い、保育・教育に活かすよう努めた。 保護者連絡・園情報の発信：今年度より保護者へのメール配信を本格的に行ったが、日々のお便りや掲示に加え重ねてお知らせができ、かつ緊急の連絡(地震の後の報告、雨天による遠足の中止など)もスムーズにできた。 子育て支援：一時預かり保育の利用が前年度を大幅に上回り、年々ニーズが高まっていることを実感した。
5. 幼保小連携・地域交流	小学校への接続：例年通り保幼小連絡協議会に参加し、近隣の幼稚園・保育所・小学校とともにスタートカリキュラムを計画・実施した。 地域との交流：地域の福祉施設等が開催する行事に年長児が参加し、歌や和太鼓、踊りを通して交流を深めた。
6. 運営管理	週に一度の代表者会議を設け、クラスの状況や行事の計画、保健衛生、最新の情勢等について情報共有をすることに努めた。

## 4. 今後取り組むべき課題

	課題	取り組み内容
職員	改善すべき点などの気づきを積極的に提案する	
	熟達者による新任者へのフォロー	
教育・保育	カリキュラム・マネジメントに重点を置く	「計画は子どもの実態に合わせて常に見直し改善する」「記録を振り返り実際にいることができているかを吟味する」という視点を持つ (PDCA サイクル)
	アクティブ・ラーニングについての理解を深め、教育・保育に取り入れる	子どもの主体的・対話的で深い学びを促すための関わり方、環境構成、教材の用意などの工夫
	在園時間の違いに対する配慮	1号認定児童などが、在園時間・登園日数が少ないために不利益を被ることがないように努める (教育・保育計画、行事計画など)